

短大における IT 関連資格のあり方について

IT-Related Qualifications for College Students

柴 田 徹
Toru Shibata

序 論

1. IT の普及の実態
2. パソコンに関する資格制度の実態
 - (1) 国家試験
 - (2) 公的試験
 - (3) 各種団体試験
 - (4) ベンダー認定試験
 - (5) 各種資格の比較分析
3. 大学教育における資格の取り組み状況
 - (1) 有資格者に対して入試時に優遇措置を行う短大・大学
 - (2) 有資格者に対して単位を付与する、もしくは成績評価に加味する短大・大学
4. IT に関する資格制度への今後の取り組み
 - (1) 入試時の優遇対策について
 - (2) 授業にリンクした形での資格取得の奨励
 - (3) 資格保有者に対する単位付与の是非

結 論

序 論

IT（情報技術：Information Technology）の進展は、1940年代から始まっていると言われ、1970年代になってマイクロプロセッサの発明により、一部マニアを中心にではあるが一般化され始めた。1980年代にはいるとパーソナルコンピュータ（以降、パソコンと略す）と電話線を利用した低速度通信により、現在のパソコンの利用形態の原型が出現した。1990年代に入ると、通信回線の高速化・高品質化、パソコンの性能アップと低価格化、OSの操作性改善と高機能化、インターネット技術の出現と普及、ホームページを中心としたインターネットコンテンツの拡大と内容の充実等、様々な技術要素が絡み合い爆発的にその普及が進んでいった。2000年以降、携帯電話の高機能化、通信速度の向上、カバーエリアの拡大等からモバイル環境での利用も普及している。